

令和元年 11月 8日-11-8

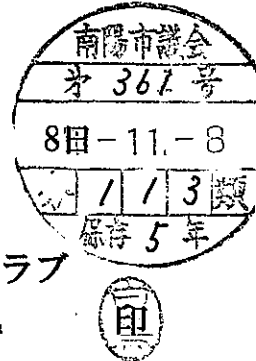
南陽市議会議長 高橋 弘 殿

保守公明クラブ
会派会長 白鳥 雅巳

令和元年度 会派先進地調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市
政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容	No1
調査期日	令和元年10月23日（水）から 25日（金）まで 2泊3日	
調査場所	京都府綾部市 （人口約33,600人）	
調査目的	空き家活用定住促進事業について	
調査概要 (感想)	<p>空き家を活用し、若い子育て世代の定住や人口減少による社会動態の維持・人口増加推進事業の施策や課題について研修した。綾部市では、第5次総合計画策定を機に「交流から定住へ、定住から地域振興へ」を目的に平成29年度「定住・地域政策課」へ課名変更し定住促進について、市民・事業者（不動産）・行政が役割を明確化し、全市一丸となって取り組むための機運醸成を図る理念条例を制定した。</p> <p>「綾部市住みたくなるまち定住促進条例」以上からの取組みは、①定住サポート総合窓口の開設。 ○空き家バンク登録制度 ○情報の発信 ○定住相談 ○就職・就農相談</p> <p>②空き家の流動化を促進させるための施策</p> <p>○空き家流動化褒賞金給付制度として空き家提供者に10万円の謝礼（年平均13件）</p> <p>○固定資産税納税通知書封筒への空き家バンク登録呼びかけチラシ封入</p> <p>○空き家管理事業者紹介制度・・管理事業者を紹介（7業者）</p> <p>③定住者を誘導するための施策</p> <p>○定住支援住宅の整備・・市が10年間無償で借り、改修を予算内（300万円）で実施、定住希望者へ賃貸する仕組みで、市街地を除く10地区に各1棟整備し、入居年齢が60歳未満で構成される世帯が対象。入居期限3年（月額3万円・現在8棟管理中）</p> <p>その他の施策</p> <p>○UIターン者住宅取得等資金融資あっせん制度（年齢20～55歳未満300万円上限）</p> <p>○宅建業者との連携（空き家の転売・賃貸契約時の法的手続き等）</p> <p>○空き家見学ツアーの開催</p> <p>○定住者宅への訪問活動（年1回以上訪問し、相談活動）</p> <p>○空き家活用定住促進事業費補助金（補助率：改修工事対象経費2/3）</p> <p>以上、綾部市では移住・定住に力を入れており、何とか人口減少に歯止めを掛けようと豊富な施策で取り組んでいるが、他自治体と同様に自然動態等で人口減少が止まらない。若者が定着し、出産・子育てが安心してでき、自然に地元の人との関わりが気さくに出来る環境整備が、時間は要すると思うが本市に思いを馳せながら必要と感じました。</p>	
その他		



令和元年 11月

8日-11-8

南陽市議会議長 高橋 弘 殿

保守公明クラブ

会派会長 白鳥 雅巳



令和元年度 会派先進地調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容	No2
調査期日	令和元年10月23日（水）から 25日（金）まで 2泊3日	
調査場所	京都府宮津市 （人口約18,000人）	
調査目的	観光革命の推進について	
調査概要 (感想)	<p>潜在型観光地への転換、観光消費額の拡大を目指すノウハウについて研修した。平成27年10月に策定した「宮津市まち・ひと・しごと創生戦略」において、経済力を高める「自立循環型経済社会構造への転換戦略」のもと天橋立に代表される豊かな自然や地域特性を生かした観光勝を高める事業を、海の京都DMOや天橋立観光協会と共に進めている。宮津市には、日本三景の一つ「天橋立」がある。また、北前船寄港地でもあり、多くの観光客が訪れる観光地である。外国人含め年間約300万人との事だが、近年は横ばい。一つには観光スタイルの変化があり、「団体・物見遊山型」から、「個人・体験参加型」へ移行し、消費者ニーズに対応した観光地づくりが必要。政策パッケージ「しごとをつくり、安心して働けるようにする」目標「観光革命による働く場の確保」として、○日本の顔となる観光地づくり○Made in 宮津の土産づくり○誘客促進と外国人観光客の受入体制整備とした。京都縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道の全線開通、舞鶴港に大型クルーズ客船が多数入港等、観光誘客に大きなチャンス。又、土産物への消費者ニーズの対応（地元商品や地域を感じられる商品を求めている）が必要であるが、地元商品が少ないためにMade in 宮津の商品を増やすことが重要とのこと。一過性的に通り過ぎる観光客を地元で宿泊させ、地元にお金を還元させられるかが課題。やはり感じ、思ったことは本市も観光、誘客に力を入れている割には客足が伸びない。地元には温泉、ワインや酒、菊まつりに熊野大社、パラグライダー基地等々があるが、東北中央自動車道の開通また、米沢に道の駅が出来たお陰で、本市の存在が薄れ、ただ、交通の通過点、分岐点となっている。益々人口の流動化（流出化）が進み、若者の定着が難しくなる事は想像できる。打開策への施策を行政だけでなく市民一丸となって考えて行く必要があるし又、そうしなければ南陽市は取り残されていくことになること・・・想像したくないが、智慧を出しながら本市らしくPRしていくしか無いものと感じた。</p>	
その他		